

プログラム

毎年1月17日は「防災とボランティアの日」
1月15日～21日は「防災とボランティア週間」です。

平成22年度

防災とボランティアのつどい

みんなで支えあう 新たな「共助社会」に向けて

～ ボランティアがつなぐ『希望・KIZUNA・おたがいさま』～



2011.1.23.Sun.13:00-18:00

有明の丘基幹的広域防災拠点施設(東京都江東区有明3丁目)



主催 内閣府(防災担当)

開催趣旨

平成7年1月の阪神・淡路大震災以降、防災ボランティア活動はますます大きな役割を果たしてきています。そこで、防災の様々な局面における活動について意見交換を行い、交流を深めるために「防災とボランティアのつどい」を開催します。

今年度の「防災とボランティアのつどい」は、従来からの地縁や血縁に基づいた地域コミュニティが希薄化していく中で、被災者本位の復旧・復興のために不可欠な支えとして大きな役割を果たしているボランティアの方々をはじめとして、地域の人々や企業、団体が力を合わせて助け合う「共助」の力が発揮される社会「共助社会」の実現に向けて考える機会とします。

プログラム

以下敬称略

13:00～13:10

【開会】

- プログラム紹介

13:10～14:00

【企画展示】

みる・きく・まなぶ防災ボランティア活動

- 災害ボランティアセンターを再現した体験型コーナー
- 各地の防災ボランティア活動の取組の展示 等

14:00～16:30

【座談会】

みんなで支えあう新たな「共助社会」に向けて ～ボランティアがつなぐ『希望・KIZUNA・おたがいさま』～

- 出演者
栗田 暢之 氏（特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表）
村井 雅清 氏（被災地NGO協働センター 代表）
山崎美貴子 氏（神奈川県立保健福祉大学 学長／
東京ボランティア・市民活動センター 所長）
- コーディネーター
中川 和之 氏（時事通信社防災リスクマネジメントWeb 編集長／
静岡大学防災総合センター客員教授）
- コメンテーター
菅 磨志保 氏（関西大学社会安全学部 准教授）

16:30～17:00

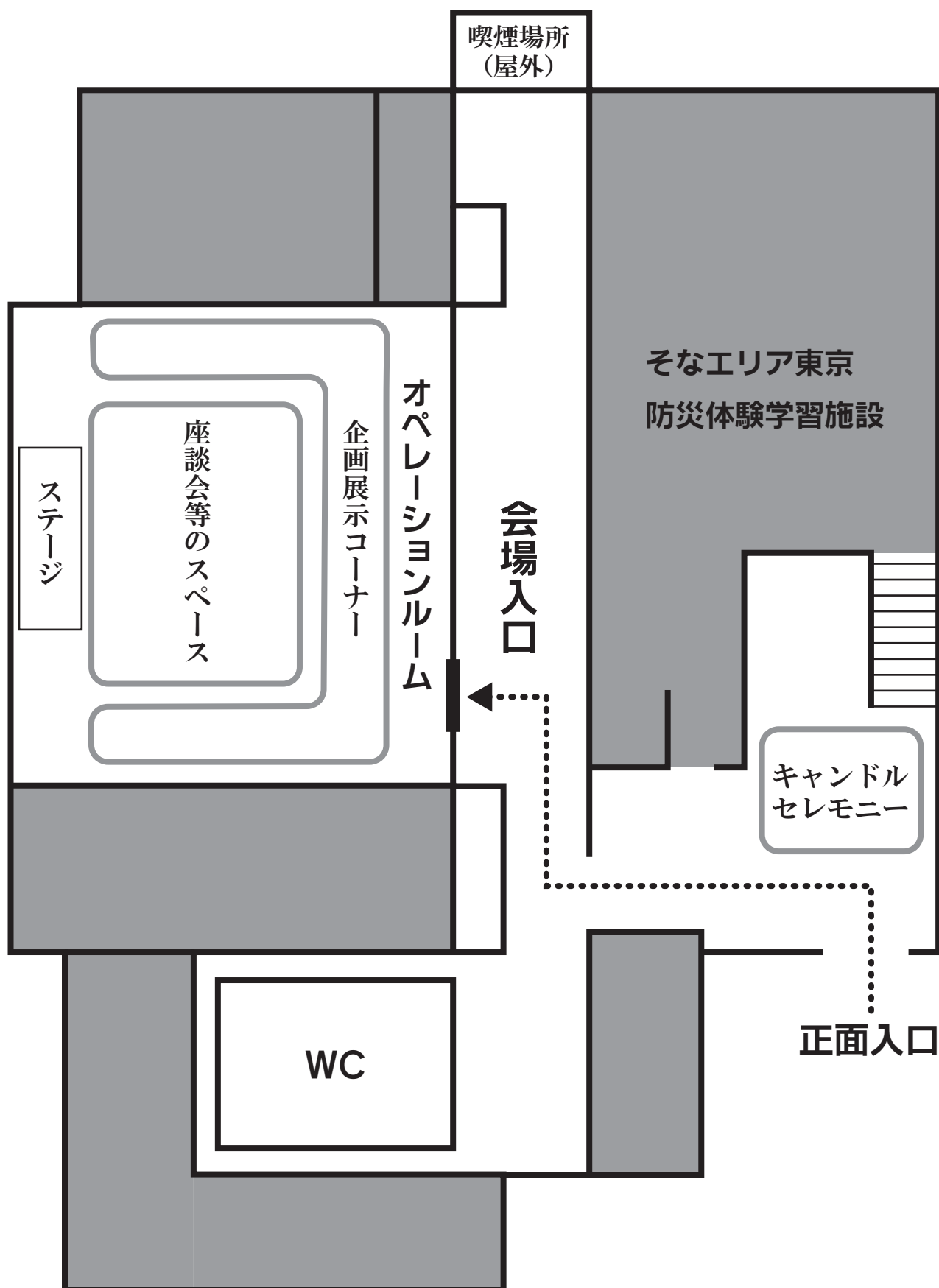
【交流の時間】

17:00～18:00

【キャンドルセレモニー】

- ろうそくを灯し、阪神・淡路大震災をはじめ災害で亡くなられた方々を追悼するとともに、被災地の復興を祈念します。

防災とボランティアのつどい 会場図



【座談会】

みんなで支えあう新たな「共助社会」に向けて ～ボランティアがつなく『希望・KIZUNA・おたがいさま』～

【出演者】

栗田 暢之 （特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表）



1964年岐阜県生まれ、名古屋市在住。名古屋大学大学院修了（環境学）。阪神・淡路大震災時に当時勤務していた大学の学生らとともに現地入りし、以降、国内の約30箇所の災害現場で支援活動を展開。2000年東海豪雨水害では「あいち・なごや水害ボランティア本部」の本部長を務めた。「地域防災」「災害ボランティア」「災害時要援護者」等をテーマにした講演会やワークショップ等様々な事業に取り組んでいる。その他、中央省庁、愛知県などの各種検討会委員も歴任。2003年防災功労者防災担当大臣表彰受賞。震災がつなく全国ネットワーク代表、日本災害復興学会復興支援委員長なども兼務。

村井 雅清 （被災地NGO協働センター 代表）



1950年神戸市生まれ、1969年兵庫県立兵庫高校卒業。神戸の港湾労働者として8年間就業した後、震災発生まで長田のケミカルシューズ業界に従事。震災後「ちびくろ救援ぐるうぶ」（現「ぐるうぶ“えん”」）事務局長（後、代表）として救援活動に取り組む一方、「阪神大震災地元NGO救援連絡会議」の分科会から独立した「阪神・淡路大震災『仮設』支援NGO連絡会」（現：被災地NGO協働センター）の代表となり現在に至る。

山崎美貴子 （神奈川県立保健福祉大学 学長／東京ボランティア・市民活動センター 所長）



立教大学大学院文学研究科応用社会学専攻修了後、英国マンチェスター大学院留学。明治学院大学教授・副学長を経て、現在、神奈川県立保健福祉大学学長。東京ボランティア・市民活動センター所長、全国的なボランティア活動を推進・実施する団体から構成される「広がれボランティアの輪」連絡会議の会長を務めるなどボランティア活動等を精力的に推進する。『ボランティア活動のひろめ方』（第一法規）など著者多数。

【コーディネーター】

中川 和之 （時事通信社防災リスクマネジメントWeb 編集長／静岡大学防災総合センター客員教授）



1981年日大芸術学部卒。時事通信社記者として気象庁担当などを通じて地震や火山、災害対応を学ぶ。出身地である阪神間での地震をきっかけに、記者としてだけでなく市民の立場から災害対策のあるべき姿を模索し、中央防災会議や内閣府、厚生労働省などの各種委員会の委員を務める。日本地震学会で災害と自然の恵みの両方を次世代に伝える行事を続け、日本ジオパーク委員会に学会代表として参画。災害に関わるNPOの役員なども務め、地元でも横浜栄・防災ボランティアネットワークの運営委員として活動している。

【コメンテーター】

菅 磨志保 （関西大学社会安全学部 准教授）



1995年、東京都立大学大学院修士課程在学中に発生した阪神・淡路大震災を契機に、災害や市民活動に関する研究を開始。修了後は東京都社会福祉協議会、東京都生活協同組合連合会にて災害関係の委員会・調査研究事業の事務局を担当。2002年より「人と防災未来センター」の研究員として防災研究・人材育成事業などに従事。2005年から大阪大学の特任教員を経て、現職。共著書に『震災ボランティアの社会学』『災害ボランティア論入門』など。災害ボランティアや自主防災に関する政府主催の委員会、災害NPOの全国ネットワークにも参画。

【企画展示】

みる・きく・まなぶ防災ボランティア活動

- 災害ボランティアセンターを再現した体験型コーナー
- 各地の防災ボランティア活動の取組の展示 等

出展団体一覧（順不同）

- 宮城県内の社会福祉協議会
- 建築防災くまさんの会
- ユニバーサルデザイン・ステップ
- SOS江東
- 民間防災ボランティア 災害機動通信隊
- 財団法人市民防災研究所
- 神奈川災害ボランティアステーション
- 手話サークル「すみだ」
- 復興ボランティアタスクフォース/
あかつきボランティアネットワーク
- 藤沢市腎友会/NPO法人神奈川県腎友会
- NPO日本救難バイク協会
- 社団法人中越防災安全推進機構
- A - y a n T o k y o
- たてもの修復支援ネットワーク
- 横浜防災ライセンス・磯子
- 防災ユースフォーラム
- NPO法人NPO愛知ネット
- 総務省消防庁
- 内閣府

施設利用上のお願い

携帯電話はマナーモードもしくは電源をお切りください。

オペレーションルームに設置してある、プリンター等の備品には触れないようにお願いいたします。

会場内、ペットボトルの水以外は持ち込み禁止となります。

喫煙所は廊下に出て、左に進んだ先にあります。喫煙は決められた場所で行ってください。

平成22年度 防災とボランティアのつどい 事務局

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（災害予防担当）付 東・山本・河元

（電話）03-3503-9394 （FAX）03-3581-8933

株式会社 ダイナックス都市環境研究所 担当：津賀・渡辺・橋本

（電話）03-3580-8221 （FAX）03-3580-8265 （メール）info@bousai-vol.jp